

噴火災害

全国がまだすドーム巡回展

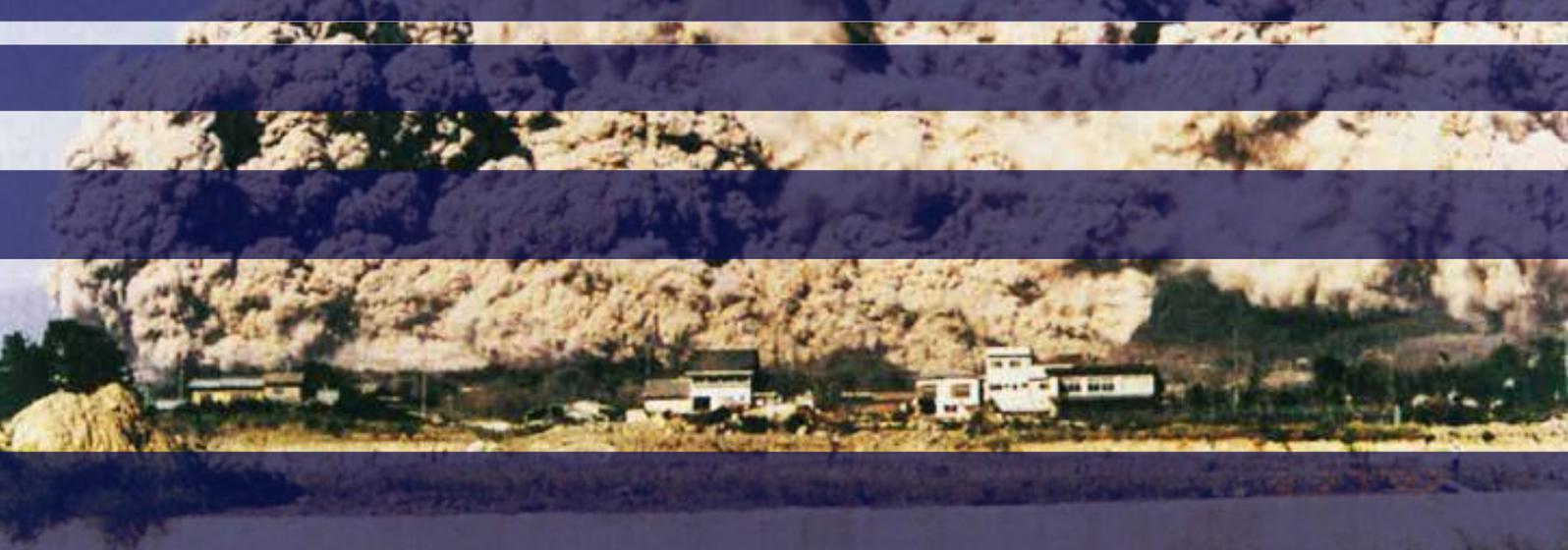
から **30** 年

1991『雲仙普賢岳噴火災害』 を振り返る

2021 9.7 火 ~ 26 日

会場 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
西館1階 ロビー（無料ゾーン）

主催 雲仙岳災害記念館
共催 全国火山系博物館連携協議会、
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター



噴火災害から 30 年

1991『雲仙普賢岳噴火災害』 を振り返る

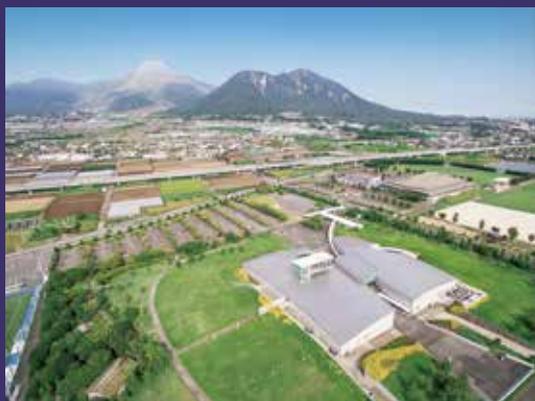
全国がまだすドーム巡回展

2021 9.7 火 ~ 26 日

1991 年に長崎県島原半島で起きた雲仙普賢岳噴火災害から今年で 30 年。あらためてこの災害を知っていただく機会をもうけるため、噴火活動、災害の発生と被害の状況を振り返るパネルと、実際に被災した実物資料で紹介しています。

また火山・噴火に関する自然現象の解説や、その長い歴史、調査研究の紹介等を合わせ、火山活動や噴火について、総合的な理解を深めていただくことができます。

この展示は長崎県島原市の雲仙岳災害記念館（愛称：がまだすドーム）が制作し、全国 8 箇所の巡回展示のスタートとして、当センターで開催しています。



雲仙岳災害記念館の全景。背景に雲仙岳が広がる。



雲仙普賢岳と、雲仙岳災害記念館所在地
地図：国土地理院 Web より

問い合わせ：

<企画展について>

雲仙岳災害記念館（がまだすドーム）

Tel 0957-65-5555

〒855-0879 長崎県島原市平成町 1-1

<https://www.udmh.or.jp>

<会場について>

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター「観覧案内」

Tel 078-262-5050

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2

<https://www.dri.ne.jp>

当時おきた噴火現象と災害に学ぶ



雲仙普賢岳山頂付近に現れた溶岩

溶岩・溶岩流

マグマが地表へ噴出する現象。普賢岳の噴火では約 800℃の溶岩が噴出した。

雲仙普賢岳は、1990 年（平成 2 年）、198 年ぶりに噴火。その後状況は刻々と変化していった。



噴出したマグマが盛り上がる「溶岩ドーム」が成長していった。これが火口から新しく湧き出るマグマに押されて崩れ、「火砕流」が発生するようになった。

火砕流

溶岩の破片、軽石、火山灰が火山ガスと一緒に、ものすごいスピードで山を流れてくる現象。噴火現象の中でもっとも恐ろしいものの一つ。

1991 年（平成 3 年）6 月 3 日、山麗の町に到達。火山の様子を取材していたマスコミと消防団など、43 名の死者・行方不明者を出した。6 年間に起こった火砕流は 9,400 回あまりとなった。



上：普賢岳で起きた火砕流

下：町に襲いかかる雲仙普賢岳の火砕流 1992 年 9 月 27 日



土石流で屋根まで埋まった家

土石流

噴火によって降り注いだ火山灰は雨を通しにくく、少しの雨でも土石流を起こす。

雨が降るたびに発生した土石流が、家を壊し、道路や田畑を石と泥の海にした。一度に 579 戸の建物を埋める大きな被害を出したこともあった。



阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

写真提供：雲仙岳災害記念館